



児童一人ひとりに「タブレット」を配付

昔は黒板とノートを中心とした一斉授業が主でした。しかし今は、タブレットの導入により、子どもたち一人ひとりの理解度や関心に応じた学びが可能になりました。また、アプリ上で各自の考えをまとめ共有することが簡単になり、効果的に学びを深めることができるようになりました。

こうしたタブレットを活用することで先生と子どもたちのやりとりも可能になり「主体的に学ぶ姿」が多く見られるようになっていきます。



タブレットを使用した取り組み

1クラス35人以下の「少人数学級」

昭和の時代は、40人以上の子どもたちが1クラスで授業を受けていましたが、児童生徒一人ひとりへのきめ細やかな指導を目的として、1学級あたりの人数が35人以下となる「35人学級」が段階的に導入されています。一人ひとりの児童の理解や気持ちに寄り添った指導ができるようになっていきます。



運動会の内容も大きく変わっています

近年猛暑が続いており、熱中症への対策のため開催時期を気候の良い時期に変えています。

また、安全面の配慮により怪我のリスクが高い競技は減り、子どもたち一人ひとりが活躍できる内容を重視しており、単に勝ち負けではなく協力することや達成感を味わう内容へ変わってきています。

さらに開催時間が大きく変わり、今は午前中までの開催が一般的になっています。



小学校の今

入学という新しい門出を迎え少し落ち着いた時期になりました。

子どもたちは元気に学校生活を過ごしていますが、昔とは大きく変わったことも増えています。

今月号ではそんな小学校の今について関沢小学校及びつるせ台小学校にお話しをお伺いしました。

にじいろスマイルポスの設置

つるせ台小学校



つるせ台小学校では、昇降口を入ったところに「にじいろスマイルポス」を設置し、日ごろ困っていることだけでなく、してもらってうれしいことも投函できるようにしています。

投稿されたものは担当の先生が内容を確認して適宜対応したり、良い出来事は子どもたちに知らせたりするようにして「みんなが気持ちよくすごせる学校づくり」につなげていきます。

いのちの授業+(プラス)への取り組み

関沢小学校・つるせ台小学校ほか

関沢小学校及びつるせ台小学校を含む市内すべての小中学校では、自分や他の者を大切にすること、違いを認め合うことを目的に、「いのちの授業+(プラス)」を実施しています。

また、SNSの使い方、医療的ケア児や障がいのある方について学ぶ授業、専門機関と連携した体験的な学習など「誰もが安心して生きられる社会」について考える授業を行っています。



AETの導入

AETとは、主に学校で英語を教える外国人講師である「Assistant English Teacher (英語指導助手)」の略称です。

AETは、日本人の英語教師と共に授業に参加し、児童・生徒に「生きた」英語を届けており、3・4年生は週1時間、5・6年生は週2時間履修しています。AETとともに英語の授業は、生きた英語に触れるよい機会となっています。正しい発音や表現だけでなく、外国の文化や考え方も触れることができ、子どもたちには「英語は勉強するもの」ではなく、「英語を使ってみよう」という意識が芽生えます。国際理解への第一歩にもなっています。



AETによるイングリッシュサマーキャンプ

学校給食のアレルギー対策

食物アレルギーは、子どもたちの健康と命に係わることになることから、学校給食では食物アレルギーのある児童が安心して食事ができるように、事前の確認や個別対応をしています。配膳の段階でも細心の注意を払い事故防止に努めています。



ある日の小学校の給食

STEM教育授業の導入

S (science 科学)、T (technology 技術)、E (engineering 工学)、M (mathematics 数学) の頭文字をとった教育のことでこれらの分野を総合的に学ぶことです。

子どもたちは、日ごろの教科で身につけた知識や技能を生かして、総合的な学習の時間を中心に自らの課題について調べ、深掘りし、成果をまとめて発表するなどの学習活動に取り組んでいます。



ロボット作りを通して創造力を育む